

1 単元名 3けたの筆算のしかたを考えよう

2 単元設定の背景

教材観

本単元は「数と計算」領域において、3けたの数の筆算を通して、計算の正確さだけでなく、数の構造や計算の仕組みを理解することをねらいとするものである。児童が「位ごとに分けて考えること」や「一の位から順に計算すること」「まとまりとしての十・百の意味」に気づきながら、筆算の意味に主体的に迫っていく学習を重視する。また、友達との比較や説明の活動を通して、因果関係を意識する思考を育て、誤答や多様な考えにも意図的にふれることで、筆算の意味を再構築していく。その過程を通して、計算技能にとどまらず、数理的に考える力や、言語を通して思考を構築・共有する力の育成をめざす。

児童観

本学級の児童は、3けたの筆算の手順や計算技能を概ね身に付けており、正確に解こうとする意欲も高い。一方で、「なぜその答えになるのか」といった計算の意味や数の構造に注目する場面では、形式的な処理で終わることが多く、答えの共通性に気づいても深く追究しようとする姿には個人差がある。また、自分の考えを言葉で説明する力には差があり、話の筋道を立てて伝えたり、友達の意見と比較して自分の理解を深めたりする学び方にはまだ慣れていない。数量の関係や変化に着目し、それを言葉で説明する力はこれから育っていく段階にあり、今後の学習で丁寧に伸ばしていく必要がある。

集団観

指導観

指導にあたっては、3つの観点を重視する。1つ目は、児童が自ら数を操作しながら、計算結果に共通点が現れるという不思議さに出会い、筆算の意味や数の構造に気づけるようにすることである。2つ目は、「たとえば」「どうして」などの言葉を引き出しながら、気づきを友達に説明したり、比べ合ったりする場を通して、思考を深める言語活動を重視することである。3つ目は、友達の考えに耳を傾け、違いや共通点に目を向けながら、考えをつなげていく協働的な学びを大切にすることである。こうした活動を通して、計算の正確さに加えて、理由をもって考え、伝え合う力の育成をめざす。

3 単元の目標及び計画（全14時間）

■単元の目標

問題解決や友達との話し合い活動を通して、筆算の意味や計算の仕方を理解し、それらを用いて、数量の関係をとらえ、適切に活用できるようにする。

■単元の計画

第1次	3けたの足し算	4時間
第2次	3けたの引き算	5時間
第3次	大きい数の計算	1時間
第4次	計算の工夫	4時間（本時3/4）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3けたの引き算の筆算の仕方を理解し、正しく計算している。	計算のきまりや仕組みに着目して、根拠をもって説明したり、友達の考えと比べたりしている。	筆算の良さや意味に気づき、学習課題に対して自分なりの見通しをもって取り組み、友達と考えを伝え合う活動に積極的に関わったりしている。

5 本時の学習

■目標 3けたの引き算を繰り返す中で、計算結果を比べ、同じ答えになるきまりや数のおもしろさを見つけようとしている。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全: 全体の場合 小: 小集団 個: 個人) ⑦: 評価の観点 (方法)

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 2けたの引き算で見つけたきまりがあったことを思い出す。 ・ 答えが9のだんになる。 ・ 十の位と一の位を足すと9になる。 ・ (カードどうしを引く) $\times 9 =$ 答え ・ 引き算リレーの最後は9	(1) 「2けたの引き算ではどんな計算のきまりがあった」と問うたり、自分たちで見つけたきまりについて提示したりすることで、数に隠れた不思議さを思い出し、本時の学習への関心を高められるようにする。	(全) 問題について全体で意見を述べ合い、授業集団として課題に向かっていく雰囲気をつくる。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の学習課題を設定する。 3けたのひき算のきまりを見つけよう。	(2) 「3けたの数でも同じようなきまりがあるのかな」と問うことで、学習課題への見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。	(全) 課題を共有し全員で解決する意欲を高める。
3. 学習課題の追求	(3) 自分で選んだ3つの数字でできる最大の数から最小の数を引く筆算を行う。 ・ $963-369=594$ $954-459=495$ あれ? また同じになったよ。 ・ $852-258=594$ $643-346=297$ 何かきまりがありそう。 (4) 計算結果を全体に紹介する。 ・ いろいろな数字を使って計算しているね。 ・ 2けたの引き算のときのように、出てきた答えの数字を使って、リレー方式でやっているね。 (5) 自分が見つけたきまりを友達に伝え合いながら、自分の考えを整理し直したり、自分の見方を広げたりしようとする。 ・ どんな数字でやっても繰り下がりがあるから十の位は9になる。 ・ 百の位と一の位を足すと9になる。 ・ 全部の位を足すと、18になった。 ・ ずっと計算をしていると、「 $4 \cdot 9 \cdot 5$ 」の数字しか出なくなった。	(3) 自分で数字を選び、繰り返し引き算を行う活動を設定することで、計算結果にある共通点や特徴に気付けるようにする。 ・ 計算結果をノートに記録するように助言することで、思考の過程を振り返りながら、自分なりの見通しをもって計算に取り組めるようにする。 (4) 複数の計算結果を視覚的にとらえられるように、板書することで、きまりに注目できるようにする。 ・ 「この計算結果を見て、きまりを見つけてみよう」と問うことで、複数の計算結果の共通点を見つけることができるようにする。 (5) 児童が見つけたきまりを互いに言葉で伝え合う場を設定することで、他者の視点を取り入れたり、より確かなきまりであることを捉えたりできるようにする。 ・ 自分や友達の見つけたきまりを全体で共有する活動を通して、多様な見方ができるようにする。 ⑦ 複数の計算結果から、答えに表れるきまりや数のおもしろさを見つけようとしている。(発言・ノート)	(個) 自分の考えをもつことで、集団の学習に参加する準備を整える。 (個) → (全) 個人で出した計算結果の共有を通して、集団の一員としての自覚を高める。 (小) → (全) ペアで考えを伝え合い多様な視点にふれた上で、全体できまりを見つけることができるようにする。
4. 本時のまとめ	(6) 本時の学習についてまとめ、自己の学びを振り返る。 ・ 3けたの引き算もきまりがあった。 4けたの引き算のときもきまりがあるのかな。 ・ 計算にはおもしろいきまりがある。	(6) 児童が見つけたきまりを全体で確認、整理する場を設定することで、本時の学習を振り返りながら、「もっとやってみたい」という次の学びにつなげられるようにする。	(全) 学びを言語化し、思考を整理できるようにする。